

建設常任委員会 民生常任委員会 所管事務報告
資 料
令和元年 8 月 22 日 令和元年 8 月 28 日

※報告日までは外部への  
資料提供はご遠慮ください。

## 新中央体育館の整備内容などの見直しについて

産業文化局 文化スポーツ部

土木局 公園緑化部

## ■ 報告内容の概要

本年7月1日にプロバスケットボールB.LEAGUEが新たなB1参入基準を公表しました。

その新たな基準では、年間売上高や平均入場者数等の内容が従来に比べて非常に高い水準となっており、B1参入を目指している西宮ストークスから、西宮市立中央体育館（以下、「現中央体育館」という。）をホームアリーナとして活動し続けることが困難になったとの申し出を受けました。

その結果、西宮ストークスのホームアリーナが他の場所に移転することが確実となったため、本市ではこれを踏まえ、新西宮市立中央体育館（以下、「新中央体育館」という。）の整備内容を改めて見直すこととしました。

## ■ 報告内容の詳細

### I B.LEAGUEの新基準

2019年7月1日、B.LEAGUEはB1参入基準を、①年間売上12億円以上 ②平均入場者数4,000人以上（現在は1,500人以上）、とすることなどを発表しました。

2026-27シーズンからの新基準本格導入を前に、2024年3月に実施される次シーズンのB1・B2参入審査において新基準を満たす見込みがあるチームはB1ライセンスを交付される予定です。 ※別紙2参照



売上高 12 億円  
入場者数 4,000 人  
アリーナハードソフト要件



売上高 4 億円  
入場者数 2,400 人

**西宮ストークス** 売上高約 3 億円  
[2018-19 シーズン] 入場者数約 1,300 人

### II 西宮ストークスの状況

西宮ストークスが年間12億円の売り上げを達成することは、30試合のホームゲーム開催によるチケット販売などだけでは困難な状況です。これを達成するには、B.LEAGUEが示す「ソフト・ハードの一体経営」を実現できるアリーナが不可欠であり、球団がコントロールできる施設において、コンサートなどの興行やイベント開催など試合開催以外での収入を得ることが必要になるものと考えられます。

### Ⅲ 西宮ストークスから本市への申し出

8月20日、西宮ストークスから本市に対して、あくまで B1 参入を目指し自由な興行ができるホームアリーナを獲得するため、移転先を既存施設または新築候補地を問わず探すこととするなど、次のような内容の申し出を受けました。

- 新中央体育館は西宮ストークスのホームアリーナにはしない
- 新中央体育館をサブ・フランチャイズとして年間数試合のゲームを開催したい
- 現在、西宮市内で実施しているスクール事業や学校訪問活動などは引き続き実施する
- 移転先が確保できるまでは引き続き現中央体育館を使用したい

### Ⅳ 本市の対応

#### 新西宮市立中央体育館の整備内容

- みるスポーツへの対応

西宮市スポーツ推進計画（後期計画）では、「する」「みる」「ささえる」を通じたスポーツ参画人口の拡大を基本方針の1つとしており、「みる」については「中央体育館をみるスポーツに対応した施設として整備」と明記しています。

新中央体育館は、市民利用が主体となる方針は堅持しつつ、引き続きトップレベルのスポーツ興行試合の開催が誘致できる施設として整備します。

- B.LEAGUE ホームアリーナ検査要項の取り扱い

西宮ストークスのホームアリーナとしての整備が必要なくなるため、B.LEAGUE から公表されているホームアリーナ検査要項（B1 基準）は施設整備に反映させないこととします。

これにより、適切な観客収容人数やトイレの数などを再度設定し直すとともに、諸室の数や面積に無駄がないかを整理して、施設の規模や内容が過大にならないよう整備内容の再検討を進めます。

#### 要求水準書の見直し

新中央体育館の整備内容を再検討した後、陸上競技場や公園施設などを含めた西宮中央運動公園の維持管理・運營業務内容の想定を精査し、要求水準書の修正を行います。

【参考】

- Bリーグ
  - ・公益社団法人ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ
  - ・2015年4月1日設立
  - ・2016-2017シーズン（2016年9月22日開幕）から、それまで2つに分かれていたリーグを統一した新リーグが始まった。現在は全国で36チームが登録されている。
  
- ホームアリーナ検査要項

Bリーグが各チームのホームアリーナに求める施設基準で、観客収容人数や必要な諸室、設備、備品類を規定している。

B1、B2のチーム振り分けはライセンス制度が採用され、シーズンの成績のほかに平均観客数や経営状況、ホームアリーナ検査要項を満たす施設があるか、などで実施されている。
  
- 西宮ストークス

2015年4月、兵庫ストークスはBリーグ参入に向けて西宮市をホームタウンとしたい旨の申し出を市長宛で提出。それを受けて市は、同年7月に西宮市議会（民生常任委員会）へ市立体育館でのトップスポーツの試合継続開催に向けた報告を行った。

チームは名称を「西宮ストークス」に変更し、現在も中央体育館をホームアリーナとして活動中。

# TRANSFORMATION

# BEYOND 2020

-超えて 未来へ-

## エクспанション型 リーグへの移行

- ・ 事業投資促進のため単年競技成績のみによる昇降格廃止
- ・ 今後はクラブライセンス・複数年の競技成績で判断
- ・ エクспанション(クラブ数)は競技性・事業性で適宜判断

## クラブライセンス 基準引き上げ

- ・ エクспанション移行までにクラブ成長を更に加速させる
  - ・ B1：売上高12億円・入場者数 4,000人・アリーナハードソフト要件
  - ・ B2：売上高 4億円・入場者数 2,400人
- ※B2からB1、B3からB2に参入する際の要件は今後精査

## 新B1・B2参入審査は 2024年3月(予定)

- ・ チーム数・カーディングを考慮し2024年3月に新基準審査実施
- ・ 上記審査にて新B1基準を充足するクラブは2024-25、2025-26シーズンにおける昇降格は緩和

## 一部基準を 段階的に引き上げ

- ・ 段階的なクラブ成長を促すために、2024年3月より前に売上・入場者などの一部ライセンス項目の基準を引き上げる